



『エンジョイ ローター』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『夢をかたちに』

～Make Dreams Real～
国際ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T

発行日 2009年3月16日

No. 29

本日のプログラム

平成21年3月16日

卓話 『なぜ木で家を作るのでしょうか』

中村外二工務店 代表

中村 義明 様

プロフィール

昭和21年10月	京都で中村外二の次男として出生
昭和43年 3月	立命館大学経営学部卒業
4月	中村外二工務店入店
	ニューヨークロックフェラー邸、松下幸之助邸茶室、伊勢神宮茶室、富山県立水墨美術館茶室、サントリー美術館茶室などの国内外の数寄屋造り建築の工事請負・設計・施工
昭和59年	株式会社興石設立(和風照明、デンマーク家具製作)
平成9年6月	中村外二工務店 代表



平成21年3月2日

卓話 『決断力を磨く』

将棋棋士 羽生 善治 様

皆さんこんにちは。私は将棋の棋士ですから普段はひたすら黙って考えているのですが、今日はしゃべるという慣れないことを、限られた時間の中で一生懸命やりたいと思います。今日のテーマは決断力です。日常生活の中の小さなことでも日々決断の連続、選択の連続というのはどの人も変りは無いわけで、その中で棋士としてどんなことを考えているかということをお話したいと思います。

よく何手ぐらい読むんですかって聞かれるんです。これ結構難しい問題で、仮に1万手とか10万手が読めたとしても、それだけでは先のことが見通せない。将棋ってというのは

大体10の120乗ぐらい可能性があると言われていて、ですからしらみつぶしに考えていたんではいくら時間があってもきりがありません。最初どういことをやってるかという直感を使って考えます。第一印象とか、ぱっと思ったときに思い浮かんだものですね。将棋は一つの場面で80通りぐらいの可能性があると言われるんですけども、その中から2つないし3つぐらいの可能性に絞ります。残りの可能性は最初の段階で排除してしまいます。そこから今度その具体的な読み、Aという選択をしたらこうなって、次こうなってという具体的な手順を考えていくことになります。



脳を研究している池谷裕二さんは、直感とひらめきは違うということを言っています。直感というのは自分自身で説明できること、つまりぱっと瞬間的に思い浮かんだとき、どうしてそれをやったかということが説明できるのが直感で、何でか分からないけど、なんか思いついた。こっちは閃き。直感というのは今まで自分が修練してきたものが瞬間的に生まれるということなんです。私の好きな言葉の1つに「概念のない直感は盲目である」という言葉があるんですけど、そういうきちんとした積み重ね、基礎の部分があって、直感が働くということになります。そこから今度具体的な読み、先ほど話したように2つないし3つの可能性の中から手を考えていく。ただ可能性は指数関数的にどんどん広がっていくので、2手先、3手先となると可能性が多すぎて全体を把握することが非常に難しいんです。その時に何を使うかという大局観です。大局を見るっていうのは日常生活の中でもよく使われる言葉ですけども、今の状況で攻めたらいいのか守ったらいいのか、優勢なのか不利なのか把握できたとき、その次に何をすべきかが見えやすくなる。直感と読みと大局観の3つが大きな柱になっています。

私は15歳でプロになって今23年目で、その3つを使って考えていることにずっと変りはないんですが、比重が違ってきました。10代の時は読みを中心に考えていました。経験も大局を見る目もないですし、ひたすら順番に読んでいました。少し年数が経つと直感とか大局観を段々重視する形になっています。棋士は、現役で10代から70代の人までいるんですが、見ているとやはり50代、60代の人たちは大局観が優れています。ただ大局観を使って考えるようになると結構それで楽をしてしまって、それに頼りたく



なるというところがあるので、一つ一つ地味に確実に読んでいくということとバランスを取りながらやっているのが現状です。もう随分前、大山15世名人と対局をしたんです。私が17、8歳で大山先生が67、8歳なんですけど、その大山先生の姿を見たとき、あんまり読んでようには見えなかったんですね。一枚の絵を鑑賞するかのようを見ていて、そこで次何をすればいいかを思っていたのではないかなと思います。経験を積んでいく中で、今の方針をどうしたらいいのかとか、今はどういう状況なのかということ磨くことが大事だと思います。ただ経験というのは積めば積むほど、逆に考えることが増えるっていうこともある。例えばピンチになってどう脱出しようかと思ったとき、経験があればいろんな選択は見えると思うんですね。でも逆に言うと迷う材料が増えるということもあるのではないかな。あともう一つは、これさえやっておけば無難に80点ぐらい取れるというやり方を覚えてしまうということがある。そういうことがあるので、私は、ブレーキとアクセルの関係で言ったらアクセルを少し強めに踏むという気持ちで心をかけています。それで丁度いいバランスになると思っています。もう一つ、精神的な強さは経験を積めば積むほど伸びていく、人間の唯一の能力なんではないかなと思います。ほかの能力、例えば記憶とかは個人差もあると思うんですけど、精神的な強さというのはやっぱり経験を積めば積むほど上がって、動じないで対処することができる。ある程度経験を積んでいくと、自然に、これぐらい頑張ればこれぐらいの成果が得られるとか、何ていうんでしょうか、自分の中にある体内時計のようなものが把握できるっていうことがあるのかなと思います。

今は本当に変化が早くて、今やっていることが10年後、15年後そのまま役に立つかどうか分からないことも多い。ただその時に、何か一つのことをマスターしたっていう、そこに至るまでのプロセスが、違うことに向かっているときには、知識ではなく知恵として使えるということがあると思います。今、私は研究するときパ



ソコンで見るとですね。速いものだと1分間で1試合ぐらい見ます。ただ早送りで見るとすぐに忘れてしまう。ですから、これは本当に大事だというときは、私は1回全部紙に印刷して木の盤と駒に並べたりしています。やっぱり五感を使うっていうことなんだと思うんです。人間が得ている情報は視覚に頼る部分が多く多いけれども、それだけではなくて、とにかく五感を沢山使っていくことが大事だと思います。私は年間で60とか70ぐらいの試合を行うんですけども、必ず終わった後に感想戦をやるんです。相手と、例えばここが勝因だったとか、ここはまだ分からないとか、いろんなことを話すわけです。でも、それが終わったら極力忘れるのが大事じゃなかったって最近特に思うんですね。若いときは結構それをずっと引きずって覚えていました。最近は自然にどんどん忘れていくので丁度いい感じなんですけど、どうして忘れるのが大事かという、例えば勝てたって言うのがあっても、それがずっと残っていると、その次の試合のときに隙を生じさせるということもあるし、負けたって言うものが残っていると逆に萎縮してしまうので、きれいさっぱり忘れてゼロから次の対局に向かうのが大事じゃなかったって最近思っています。またアイデアを得るとかひらめきを得ると言うのは、頭の中を真っ白にするのと同じく関連があるような気がします。本当に何にも考えないでボーっとしていることもあって、傍目にはあまり違いが無いと思うんですけど、沢山のことを知るよりも一回全部頭の中を空っぽにして、その状態で何を思い浮かべられるかということも、ひらめきを得るためにはすごく大事な要素なんじゃないかなって思っています。

将棋は元々インドで始まったって言われているんですね。最初は、すごろくのようなものだった。日本に入ってきたのが千年から千五百年ぐらい前です。将棋の駒の王将は、最初は玉です。金将、銀将は金銀財宝、桂香は香辛料です。貿易にまつわるものが駒になっているんですね。日本の将棋は何が特徴かという、取った駒をもう一回使う、持ち駒再使用というルール。ま

た同じ色の駒でやっているのは日本の将棋だけです。そういうのを比較すると日本の将棋は極めて異質なんですね。どういふところが一番の特徴かっていうと、小さくしていったことです。もともと入ってきた頃の将棋は、もっと広い盤面で駒が70枚とか80枚でやってた。どんどんルールを変えてコンパクトにして現在の形になったのが400年前。コンパクトにしていくっていうのが、私は日本の文化の一番の特徴だと思っています。短歌も俳句も能も、茶道もそうだと思います。

将棋には似て非なる場面がすごく多いですね。例えば歩の位置が1個ずれていたら有利だけど、1個下だったら不利になってしまうというところ。それを見極めるのが、これからすごく大事になってくるのではないかなって思うんです。本当に細かいところ、ちょっとしたところの違いが決定的な違いを生み出すっていうのはよくあることで、そういうところを私自身は、棋士として大切にやっていきたいと思っています。決断をするとき、すごく迷ったときに、どれだけ細かいところまで目が配れるか。つまりAという道とBという道があって、どっちに進めばいいか分からなくて判断する材料もすごく沢山のろっているときに、より細かいところまでちゃんと自分なりに判断するものを沢山持っていて、動じないで恐れずにやっていけるというのが理想の形です。

ご清聴ありがとうございました。

羽生様から
メッセージが届きました。



本日は東京六本木ロータリー
クラブにお招きを頂きあり
がとうございました。

皆さんには真剣に聞いて頂いて恐縮を
した次第です。

今後益々のご発展をお祈りいたします。

羽生 善治